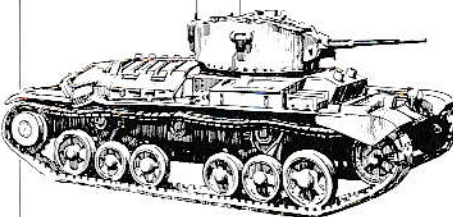
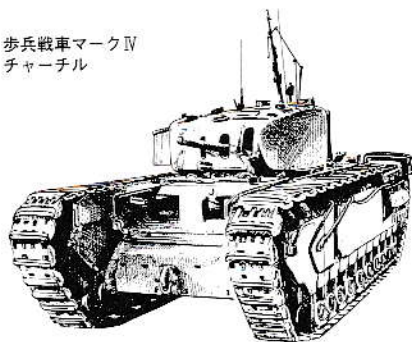


INFANTRY TANK MKII MATILDA



1/35 MILITARY MINIATURES SERIES

イギリス歩兵戦車MkIIマチルダ

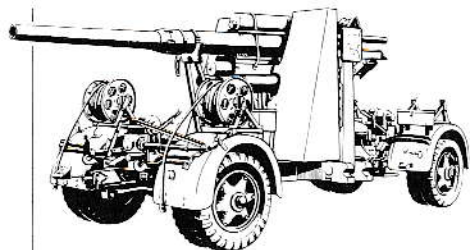
歩兵戦車マークⅠ
マチルダⅠ歩兵戦車マークⅢ
バレンタイン歩兵戦車マークⅣ
チャーチル

第一次大戦で世界で最初の戦車を登場させたイギリスは、その後、戦車を歩兵支援を目的として速度を犠牲にして分厚い装甲を持たせた歩兵戦車と、軽装甲で軽快なスピードを持つ巡航戦車の2つのタイプに分けて戦車の開発を行ってきました。このイギリスの歩兵戦車の系列には、マチルダの他にマークⅢバレンタイン、マークⅣチャーチルなどがありますが、設計段階から歩兵支援を目的として作られた、これらの戦車の系列は、歩兵戦車マークⅠマチルダⅠに始まります。1934年、歩兵戦車について2種類の基本構想が決定されました。すなわち、(1)軽量小型で製造費も安く、機関銃を装備して動く機銃座として歩兵支援用に大量に使用するもの。(2)より大型で、対戦車戦闘も想定して主砲には新しい2ポンド対戦車砲を装備、他に副武装として機銃を装備するもので、どちらも歩兵の攻撃速度に合わせて高い速度は必要とされなかったのです。

1935年、(1)の小型戦車の構造にもとづき、歩兵戦車マークⅠマチルダと名づけられた新しい戦車A11の開発が始まりました。重量11トン、乗員2名、最高速度約13km/h、武装にはビッカース・303機銃を装備したマークⅠマチルダは1936年9月に試作車が完成、続いて1937年4月から量産が始められ、1940年8月までに139輛が生産されました。一方、1936年11月、このマークⅠマチルダをより大型化した歩兵戦車A12の開発が決定されました。主砲には2ポンド砲を装備、装甲は主砲の2ポンド砲と同程度の攻撃に耐えられる強度を持つこと、そして速度は16km/h~24km/h

程度を要求されたこの戦車が、後に歩兵戦車マークⅡマチルダと呼ばれることになるのです。最初A12は、A11の発展型として考えられましたが、この案は实际的ではなく、試作車の段階で開発が止められていたA7中戦車をベースに開発が進められ、主要部の設計をウーリッジ兵器廠が担当し、細部の設計と生産はバルカン鑄造社が受け持つことになりました。1938年4月、最初の試作車A12EⅠが完成。しかし、この試作車の完成を待たずに1937年12月、65輛の生産が決定され、さらに1938年5月には165輛に増加され、その後、開戦に先立ってさらに80輛の追加が決定されたのです。イギリス陸軍当局が、いかに大きな期待を持っていたかを窺い知ることができます。同じく1938年に試作2号車が完成。この試作2号車に多少の改良を加えて、1939年から最初の量産型マークⅡマチルダⅠの生産が開始されました。重量約26トン、主砲には2ポンド砲を装備、副武装としてビッカース水冷式・303機銃を主砲と同軸に備え、エンジンはイギリス戦車として初めてA.E.C製のディーゼルエンジン2基を搭載していました。これ以後、マチルダは機銃を7.92mm BeSa機銃に換装したマークⅡAマチルダⅡ、さらにエンジンをレイランド製ディーゼルエンジンに変えたマークⅡAマチルダⅢなど、マチルダⅤまで各種の形式が作られ、また数種類の特殊目的車輛も作られて、大戦の前半、広い範囲で活躍することになります。特に最高70ミリにも及ぶマチルダの車体装甲は、ソビエトのKV-1を除いては最高のものであり、火力、防禦力共にすぐれ、第二次大戦の直前

1/35MM マチルダ(和)



ドイツ88mm砲

に登場した戦車の中では傑作と言われています。しかし、マチルダの車体構造は量産向きとは言えず、1939年の開戦までに現役についたのは、わずかに2台だけでした。マチルダが、その威力を世界に広めた最初の戦いは、フランス戦のアラスの戦いでした。1940年4月30日、イギリスはドイツの侵攻に備え、第4戦車連隊と第7戦車連隊からなる第1軍戦車旅団を伯爵ロード・ゴート大将の指揮のもとにフランスへ派遣したのです。装備戦車はマークIV B軽戦車6輛、マークIマチルダ27輛、およびマークIIマチルダ23輛の計53輛で1940年5月21日、フランスのアラス付近でドイツ第15戦車軍団の先遣部隊であるエルウィン・ロンメル少将指揮の第7戦車師団と激しい戦車戦を展開したのです。ドイツの37mm対戦車砲は、マークIマチルダ、マークIIマチルダの分厚い装甲に対して有効な攻撃を加えることはまったく不可能でした。マークIIマチルダの中には、17発の命中弾を受けても撃破されないものさえあったのです。I号、II号、III号戦車もマークIIマチルダの敵ではありませんでした。III号戦車6輛、IV号戦車3輛、I号およびII号戦車10輛以上を破壊されたドイツ軍は混乱状態に陥り、88mm高射砲や師団砲兵の大口徑砲の助けを借りなければならなかったのです。この戦闘の結果は、ドイツの戦車兵、対戦車砲兵に深刻な打撃を与えました。この戦闘に参加した指揮官の一人は後に戦闘の模様を次のように伝えています。「強力な機甲兵力が、アラスから我々を追いちらした……。我々が、敵に対して展開させた対戦車砲は、イギリス戦車の分厚い装甲に対しては、あまりにも威力が無すぎた。イギリス戦車のほとんどが、何の損傷も受けずに前進を続け、対戦車砲はそのキャタピラに踏みにじられたのである」。

この第1軍戦車旅団の第4戦車連隊、第7戦車連隊は、これから1年もたたないうちに再びロンメル將軍を相手に、3年にもわたる激しい戦いをくりひろげることになるのです。戦場は北アフリカの砂漠、新しい相手はドイツ・アフリカ軍団だったのでした。

カブツォの戦いでのマチルダ

1941年5月12日、マチルダ135輛、クルセーダー82輛、マークIV軽戦車21輛を満載したイギリスの輸送船団が、ドイツ空軍の制空権下をくぐりぬけ、エジプトのアレキサンドリヤ港に入港した。イタリア軍救援のためにアフリカに上陸したエルウィン・ロンメル指揮のドイツ・アフリカ軍団をいっきに撃滅しようというバトル・アクス作戦のために、イギリス中近東方面軍総指令官ウェーベル大将が待ちに待ったタイガー輸送船団である。

1940年9月、イギリス軍は、イタリア軍のエジプト侵攻をシジ・バラニアで迎え撃ち、いっきにリビアのエル・アゲイラまで追い落した。しかし、翌年3月、アフリカに上陸したドイツ・アフリカ軍団のためにイギリス軍は

逆にリビア、エジプト国境まで退却せざるを得なかったのであった。

ロンメルは、アフリカ軍団の第5軽師団、第15戦車師団、それにイタリアの機甲軍を率いて国境のキレナイカ地区北東部にいた。これをソルム〜バルジヤの線にとらえ、撃滅し、ハルファヤ峠の占領後、孤立したトブルク守備隊とつながりをたもって北アフリカにおける主導権をイギリスのものにしようとするのが、バトル・アクス作戦であった。イギリスから送られた戦車の大部分は、第7機甲師団の第4機甲旅団と第7機甲旅団に装備された。マチルダ90輛を装備した第4機甲旅団の目標は、ソルム〜バルジヤ〜ハルファヤ地区に集結し、新たな攻撃を準備中のドイツ第15戦車師団で、旅団の主攻勢をカブツォームサイド以南におき、カブツォ砦を奪取、当面の敵をカブツォとムサイドの周辺で撃滅した後、旅団の一部でソルムを攻撃する計画であった。

1941年6月15日午前4時、バトル・アクス作戦は開始された。第4機甲旅団第4戦車連隊の先遣部隊であるC戦車中隊の主力マチルダは、ドイツ第15戦車師団第8戦車連隊のIII号、IV号戦車80輛と激突した。このカブツォの戦いでは両軍合せて約300輛の戦車が激しい戦いを交えた。マチルダの重装甲は、III号、IV号(24口径75mm砲)の主砲弾をことごとくはね返した。サスペンションか、キャタピラを狙う以外、マチルダの前進を止める手段はなかった。第8戦車連隊は、マチルダの40mm砲によって50輛の戦車を破壊されたのである。しかし、マチルダにとって強敵はまだ残っていた。88mm砲であった。第4機甲旅団のマチルダ58輛は、88mm砲の威力によって58輛が撃破され、6月15日から17日までの72時間にもわたる戦闘で最後に笑ったのはロンメルであった。バトル・アクス作戦は失敗に終り、イギリス軍は再びエジプト国境まで追い返され、ロンメルの名声を高めただけであった。

リビア砂漠の激闘クルセーダー作戦

バトル・アクス作戦後、ウェーベル大将に代って、サー・オーキンレック大将が総司令官の地位につき、イギリス軍は2個軍団より成る第8軍に昇格した。この第8軍の機甲勢力として第7機甲師団(第4、第7、および第

22機甲旅団)、第1軍戦車旅団およびトブルクの第32戦車旅団が配属されていた。第8軍の装備戦車数は、マチルダ系列とバレンタイン系列225輛、クルセーダー系列336輛、およびアメリカのM3スチュワート系列195輛で、第32戦車旅団を除き、第4機甲旅団、第7機甲旅団、第22機甲旅団および第1軍機甲旅団に装備され、1941年11月18日〜42年1月17日までの3次にわたるクルセーダー作戦に参加したのである。クルセーダー作戦の目的は、ロンメル指揮のアフリカ軍団を撃破しキレナイカ地域を再占領、その後トリポリタニアを占領するというものであった。この作戦では第30軍団の任務は主力の第7機甲師団でドイツの戦車集団を捕捉撃滅すると共に第13軍団の側面を援護し、戦いの主導権をイギリス軍にもたらすことであった。直接の指揮官は第8軍司令官のサー・カニンガム中將で第13軍団の第4インド師団、ニュージーランド師団の歩兵部隊を支援するため、マチルダIIおよびIIIを135輛装備した第1軍戦車旅団が配属された。

作戦開始と共に第4インド師団はハルファヤ峠とシジオマール間に展開、ドイツ第15戦車師団と第21戦車師団の行動をけん制。11月21日、第1軍戦車旅団から1個戦車連隊の支援を受けたニュージーランド師団は、ドイツ軍の南を迂回し、ドイツ国境部隊の補給路を断ち切るのに成功した。また第1軍戦車旅団の残り第4インド師団は攻撃に移ってシジオマールを奪取したのである。この後、第1軍戦車旅団の第42、第44戦車連隊のマチルダは、第4インド師団、第7ニュージーランド師団と行動を共に、ドイツ第15戦車師団第8戦車連隊、同じく第21戦車師団第5戦車連隊のIII号、IV号戦車と激しい戦車戦を行い、カブツォ街道を前進して第4インド師団第7インド旅団とトブルク守備隊がエルアデルで連絡を回復させるのに成功したのである。クルセーダー作戦では、イギリス軍は大量の武器を失いながらもロンメルをエル・アゲイラまで追い落とし、この作戦は成功を収めたかに見えたのであった。しかし砂漠での戦いはこれで終りはしなかった。これから1年以上の間激しいシーズンゲームが続けられたのである。



PAINTING



APPLYING DECALS

〈マチルダ マーキング解説〉

1941年6月15日、北アフリカ戦線ではイギリス軍の“バトル・アクス”作戦が開始されました。この作戦の主役となったのが、イギリス軍、第7機甲師団です。

マチルダのマーキングは、この第7機甲師団の中から、第4機甲旅団と、第7機甲旅団を選び作られています。各マークの持つ意味を理解して下さい。

第7機甲師団 師団マーク

第4機甲旅団		第7機甲旅団	
50 旅団本部	60 旅団本部	61 第2戦車連隊	62 第6戦車連隊
51 第4戦車連隊	63 第8戦車連隊		
52 第5戦車連隊			
53 第7戦車連隊			
(共通)			

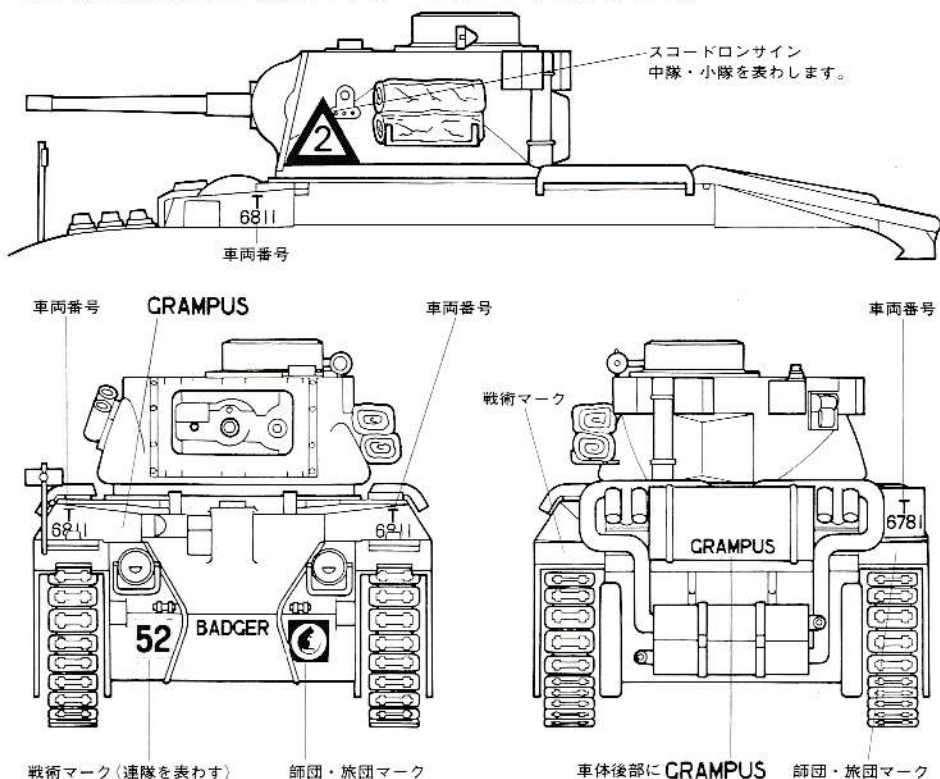
◇ 本部中隊マーク	1234 小隊番号
△ A中隊マーク	HQ 本部中隊記号
□ B中隊マーク	T 共に中隊マークの中に入ります。
○ C中隊マーク	3868 車両番号
	T 6781
	T 6811 Tは戦闘車両の意味です。

〈師団旅団マーク〉

第1機甲師団	第4機甲旅団
第2機甲師団	第7機甲旅団
第6機甲師団	第8機甲旅団
第23機甲旅団	

マチルダ戦車のマーキング それぞれのマークの位置は下図のようになります。

第7機甲師団の場合（1941年6月“バトル・アクス作戦”当時）



マチルダ戦車の中にはGRAMPAS・BADGER・PHANTOM等のニックネームのつけられている車両がありました。各ニックネームを持つ車両に使われていたマークは次のようになります。

BADGERの場合 **53** **HQ** BADGER T6811

GRAMPASの場合 GRAMPAS T6781

PHANTOM 第42戦車連隊のマーキングと塗装

塗装は、ダークイエローにレッドブラウン・ライトグレーの3色彩です。

全体にダークイエローの基本色を塗ります。

レッドブラウンは、こすりつけるように塗ります。色の境目ははっきりと。

砲身のごれはメタリックグレーで塗ります。

ライトグレーは少しフラットブルーを混ぜて青色かかった色に。色の境目ははっきりと。

補助タンクは、ジャーマングレーやフラットアースでのごれ塗装をします。



排気管のごれはレッドブラウンで。

フロントホイールのキャタピラと触れ合う面は、クロームシルバーで金属感を出します。

サスペンションカバーから流れ出るドロのごれは、フラットアースにレッドブラウンを混ぜて、かすれたように筆塗りします。

タミヤの総合カタログ

タミヤの全製品を詳しく解説した総合カタログは年に1回発行。ご希望の方は模型店でおたずね下さい。



PARTS

A 部品

1. 砲塔 2. 砲塔下部
3. I型用ガンシールド
4. ベリスコープ窓
5. II型用キャノンドラム
6. エンジンカバー ストッパーA
7. エンジンカバー ストッパーB

B 部品

1. マイクロホン
2. アーマープレート (右)
3. 前輪シャフト
4. ロードホイールカバー (外)
5. アイドラーホイールシャフト (左)
6. 後輪シャフト (左)
7. サスペンションB (左)
8. サスペンションC (右)
9. サスペンションA
10. 不要部品 11. 不要部品
12. アイドラーホイール支え (左)
13. アイドラーホイール支え (右)
14. 後輪シャフト (右)
15. アイドラーホイールシャフト (右)
16. 不要部品
17. アーマープレート (左) 18. ナンバープレート
19. ロードホイールカバー内側

C 部品

1. アンテナ基座 2. キューボラフック
3. アンテナ基部台座 4. 砲塔ライト
5. コマンダースハッチA 6. コマンダースハッチB
7. キューボラA 8. キューボラB
9. 砲塔フックA 10. 砲塔フックB
11. 積荷箱 12. 工具筒キャップ
13. 工具筒 14. キャリア
15. 補助タンクC 16. 補助タンクD
17. ハッチ 18. ライト
19. 補助タンク支え 20. エキゾーストパイプE
21. マフラーA 22. マフラーB
23. 補助タンクA 24. 補助タンクB
25. 車体部品A 26. 車体部品B
27. エキゾーストパイプD 28. エキゾーストパイプC
29. 毛布 30. II型用ガンシールド
32. II型用キャノンドラム
33. 発煙筒台 34. 砲身A
35. 砲身B 36. 銃身
37. スモークディスチャージャーB
38. スモークディスチャージャーA
39. エキゾーストパイプA
40. エキゾーストパイプB
41. シャベル 42. ドライバースハッチ
43. 点検ハッチ 44. ピストルポート
45. ドライバースハッチレール
46. バックミラー 47. 洗剤

D 部品

1. アンテナ 2. 車体止め部品
3. 車体止め部品 4. 車体止め部品
5. 車体後部フック 6. アイドラーホイールA
7. 橋 8. アイドラーホイールB
9. 補助キャタピラ 10. 車体上部部品
11. フック 12. サスペンションカバー(左)
13. ロードホイールA 14. ロードホイールB
15. 上部転輪 16. フロントホイールA
17. フロントホイールB 18. ドライバース点検口
19. 車体前部部品 20. スプロケットホイールA
21. スプロケットホイール 22. 車体部品
23. 車体部品 24. サスペンションカバー(右)
25. キャップ 26. 上部転輪

万一不良部品、不足部品などありました場合には、当社アフターサービス係までご連絡下さい。

〒422 静岡市恩田原3-7

田宮模型アフターサービス係

☎ 054 (283) 0003

TAMIYA CEMENT 40ml

タミヤセメント(ピン入り)

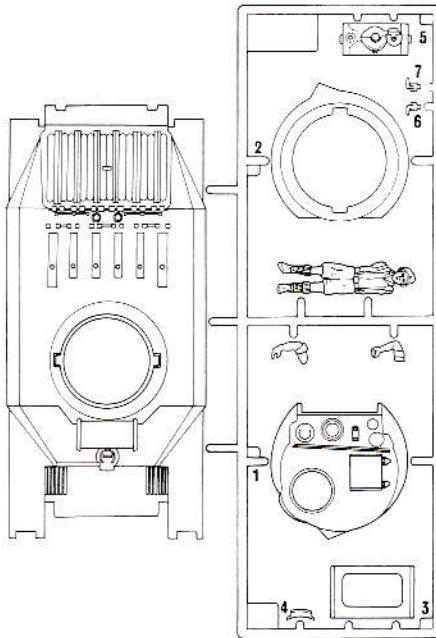
プラスチックモデル用液体接着剤。安定性のいい使い易い四角いピン入り、容量もお徳用です。



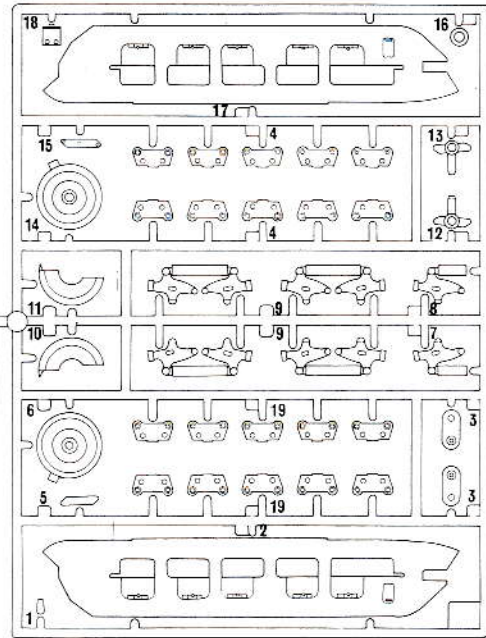
タミヤニュースを読もう

タミヤニュースはモデル作りの情報誌として多くの方に愛読されています。ご希望の方は模型店でおたずね下さい。当社より定期購読する方法もあります。

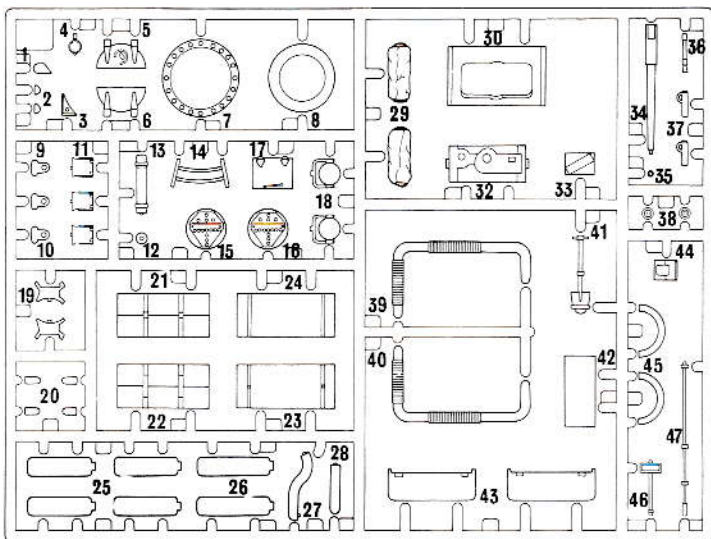
A 部品



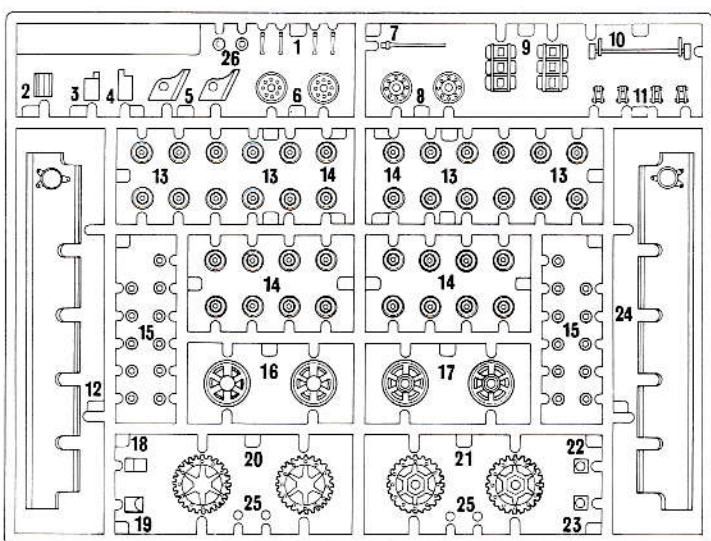
B 部品



C 部品



D 部品





作る前にお読みください

作る前にお読み下さい

●このキットは、I型とII型のどちらかを選んで組立てることができます。

●各部品は組立て順序にしたがって必要な部品をランナー(枝)から、ナイフやニッパーを使い切りはなして下さい。

●あらかじめ仮組して、部品の組立てをたしかめましょう。

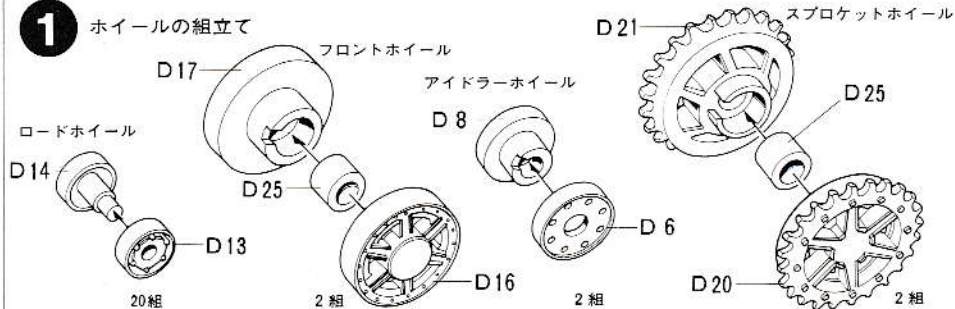
●全体の組立てが終わったあとで、キャタピラをはずして塗装をして下さい。戦車全体を塗るにはスプレー式のタミヤカラーが便利です。迷彩や、細かな部品の塗装には、筆塗り塗料のエナメル塗料が、各色そろっています。

●デカールは、全体の塗装後に、回りの透明部分を切りとってはして下さい。

1 《ホイールの組立》

- ロードホイール.....20組
- フロントホイール.....2組
- アイドラーホイール.....2組
- スプロケットホイール.....2組

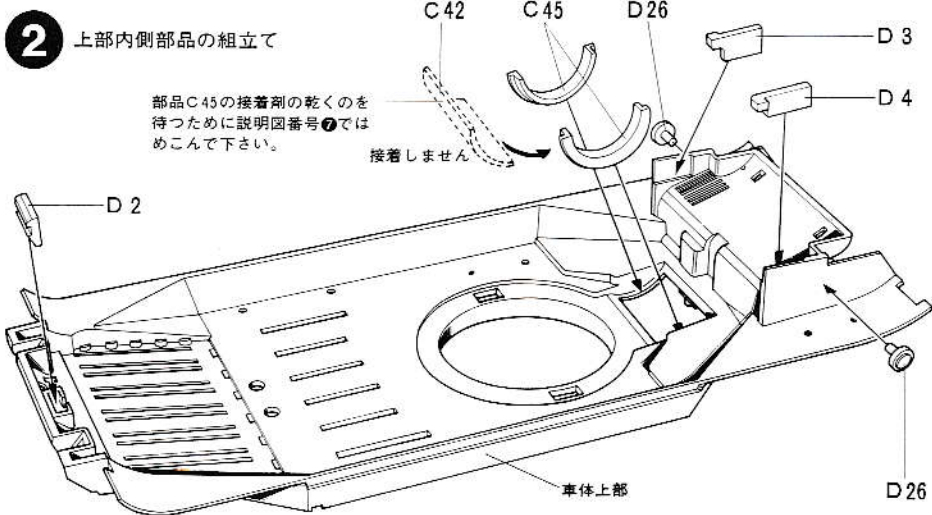
●各ホイールを組み立てますが、ロードホイールのシャフトの先端には接着剤がつかないように、又フロントホイールとスプロケットホイールの中に入る部品D25にも接着剤がつかないようにして下さい。



2 《車体上部内側部品の取り付け》

●各部品は、接着した後、力のかかる部分です。接着剤を充分につけて組み立てて下さい。

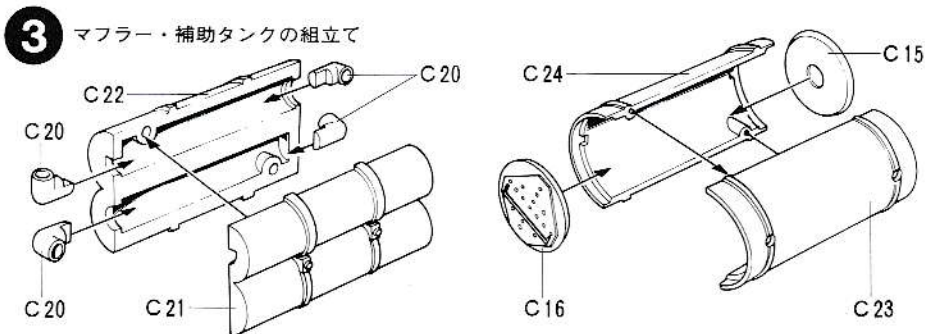
●ドライバースハッチC42は、部品C45の接着剤が乾いてからさしこみます。組み立て説明図の⑦の所まで他の組み立てを進めてから、さしこんで下さい。



3 《マフラー・補助タンクの組立て》

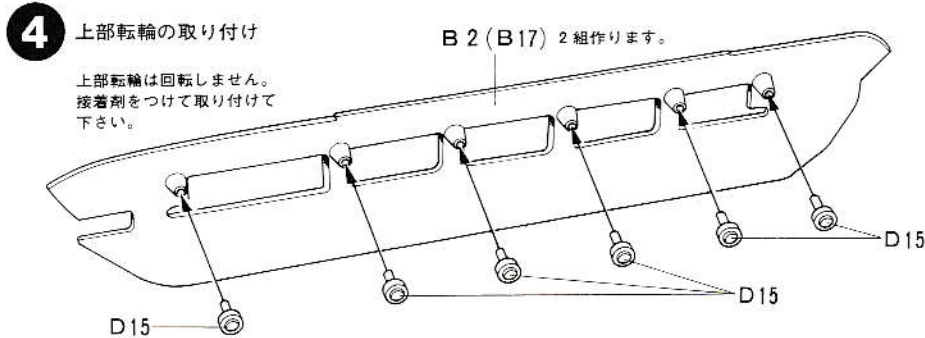
●マフラーに取り付けるエキゾーストパイプE C20の取付け方向に注意して組み立てて下さい。

●補助タンク部品C16・C15の取付け位置もまちがえないように、図をよくみて、組み立てをたしかめてから接着して下さい。



4 《上部転輪の取り付け》

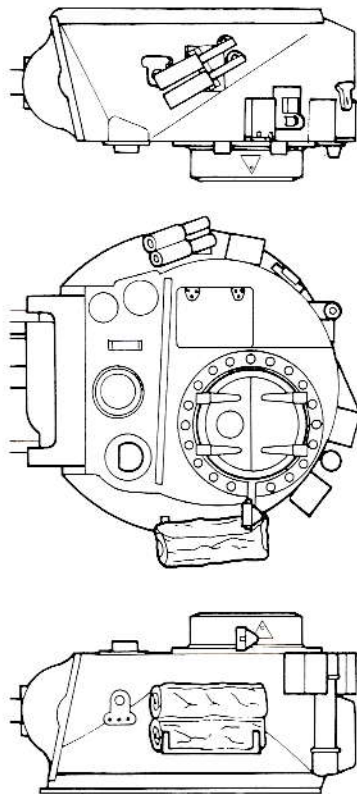
●アーマープレートB2・B17に上部転輪を取り付けます。この転輪は回転しませんので、接着剤をつけて取り付けて下さい。



5 《砲塔の組立て》

- I型用・II型用のそれぞれの防盾があります。どちらかを選んで組み立てて下さい。
- キューボラC8は回転します。C7と同時に取り付けますが、接着剤がつかないように注意して組み立てて下さい。
- ハッチC17は開いた状態と閉じた状態のどちらかを選んで組み立てます。
- 砲塔に取り付ける各部品は下の三面図を参考にして位置をたしかめてから取り付けます。
- アンテナはランナーを伸ばして自作して下さい。

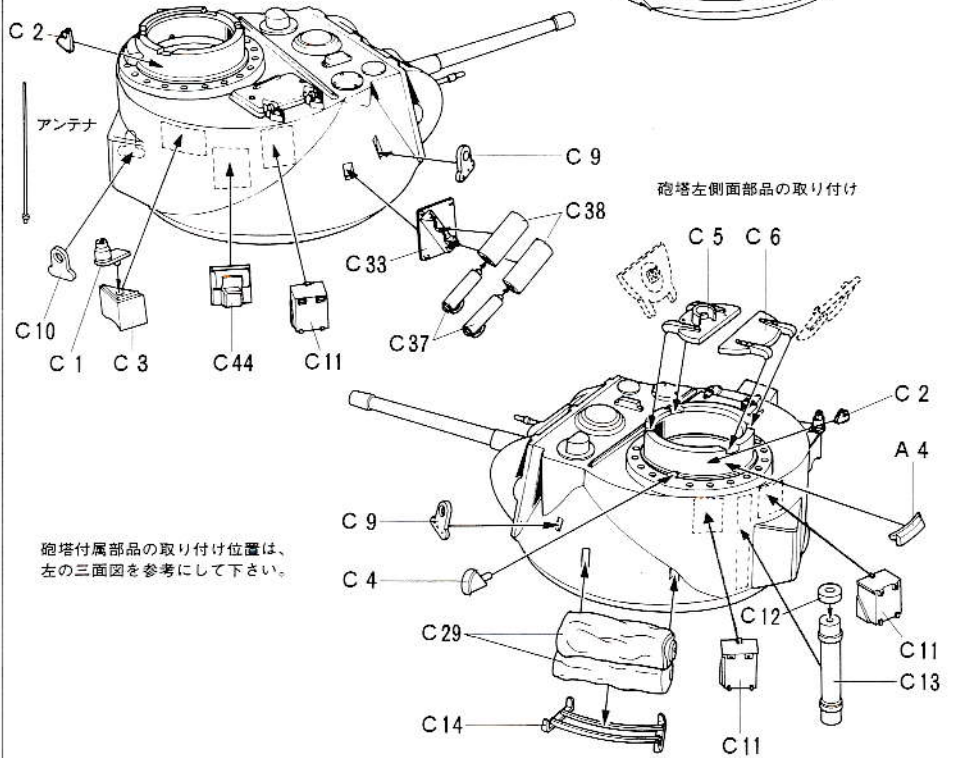
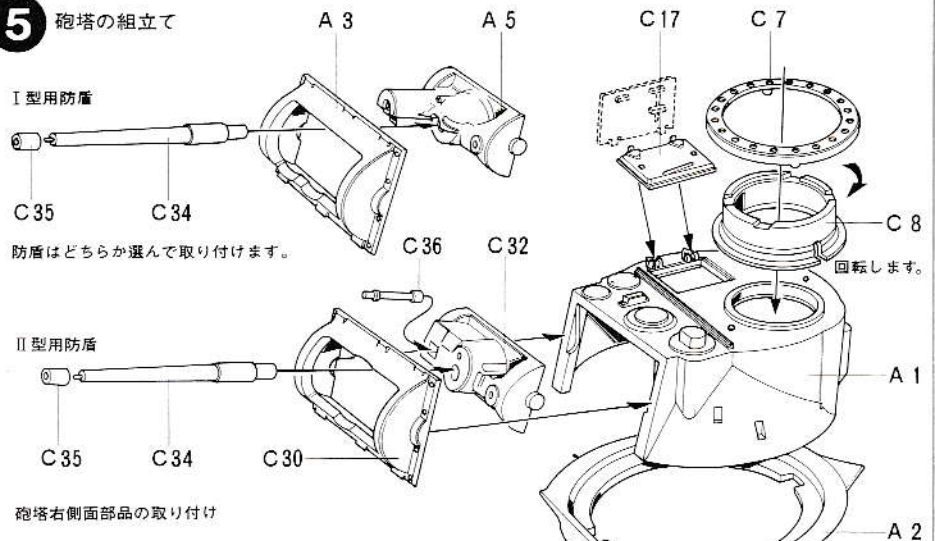
《マチルダ砲塔三面図》



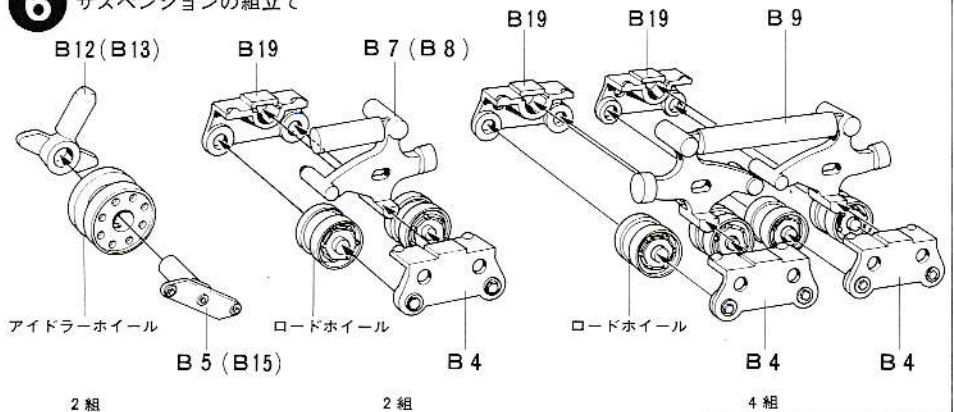
6 《サスペンションの組立て》

- 説明図①で作っていただいたホイールの接着剤が乾いていますから、ホイールと各パーツを組み立て、サスペンションを作ります。ロードホイールやアイドラホイールは回転するように接着剤をつけすぎぬよう注意して下さい。
- サスペンション部品B4、B19は形がにっていますが右、左があります。接着剤をつける前に仮に組み立てて、出来くあいなたしかめてから、接着して下さい。

5 砲塔の組立て

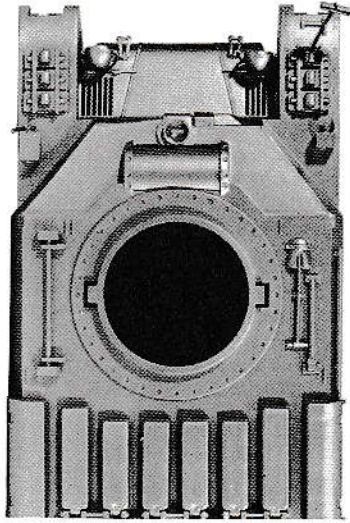


6 サスペンションの組立て



7 《車体上部部品の取り付け》

- 各部件の取り付け位置をたしかめてから、接着して下さい。接着剤は、車体上部に取り付ける各部品に付けて下さい。

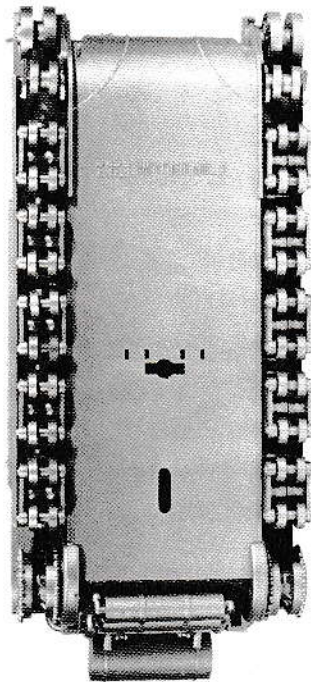


8 《サスペンションの取り付け》

- 車体下部にサスペンションを取り付けます。サスペンションは車体の左右で対照ですから、部品の形をたしかめて取り付けして下さい。

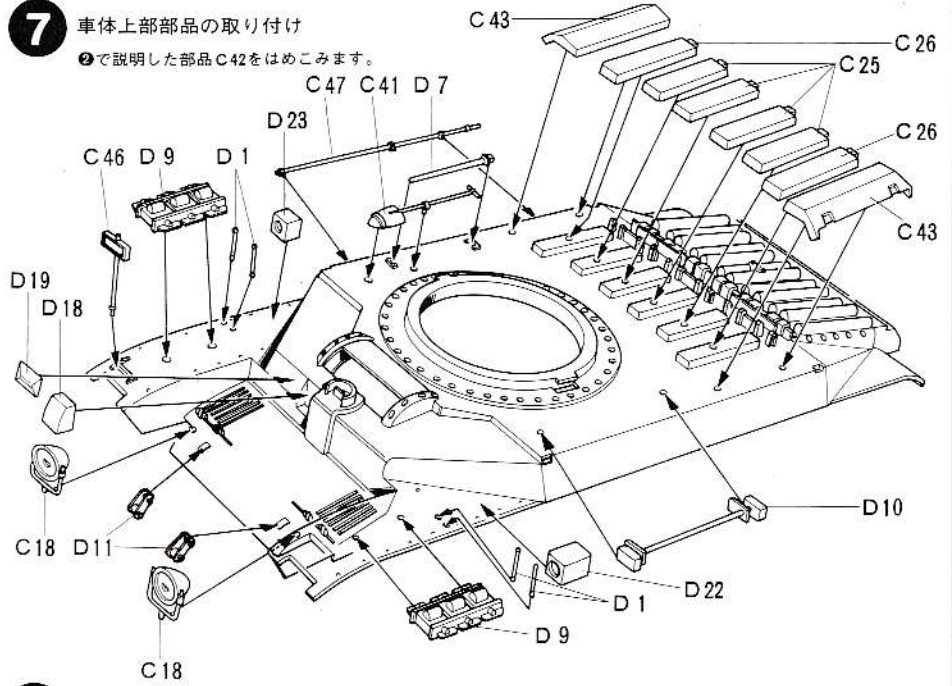
9 《スプロケットホイール・サスペンションカバーの取り付け》

- 始めにサスペンションカバーD12を取り付けて下さい。上部転輪D15は回転しません。接着剤をつけて取り付けして下さい。



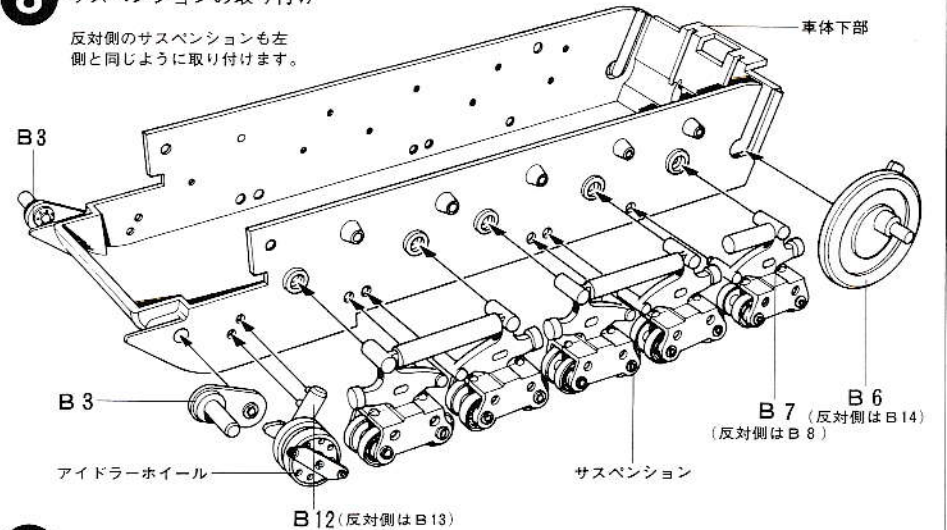
7 車体上部部品の取り付け

- で説明した部品C42をはめこみます。



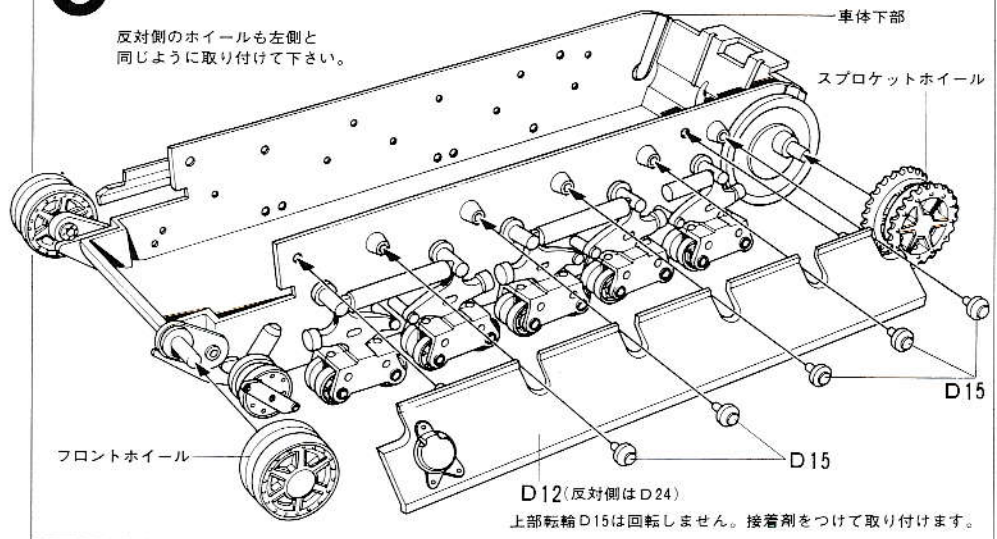
8 サスペンションの取り付け

- 反対側のサスペンションも左側と同じように取り付けます。



9 スプロケットホイール・サスペンションカバーの取り付け

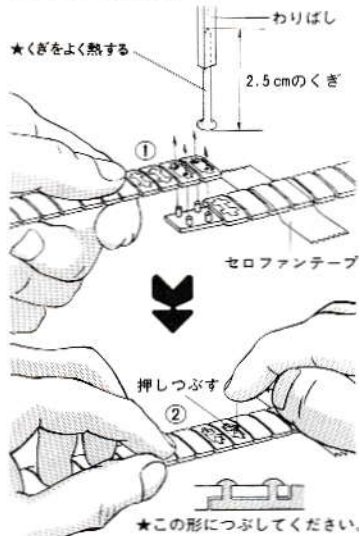
- 反対側のホイールも左側と同じように取り付けして下さい。



⑩ 《車体上部・下部の組立て》

- 出来上がった車体上部と下部を、組み立てます。先に前の部分を合せてから、後部のカギをバチンと合せて下さい。

《キャタピラの組立て》

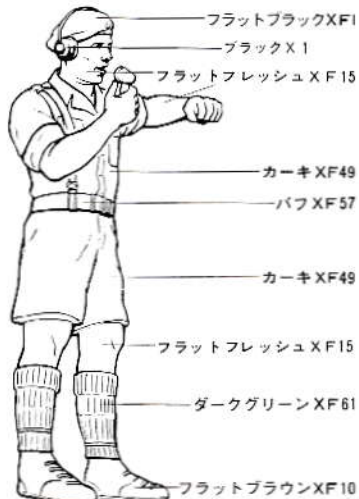


《キャタピラの上手な焼き止め方法》

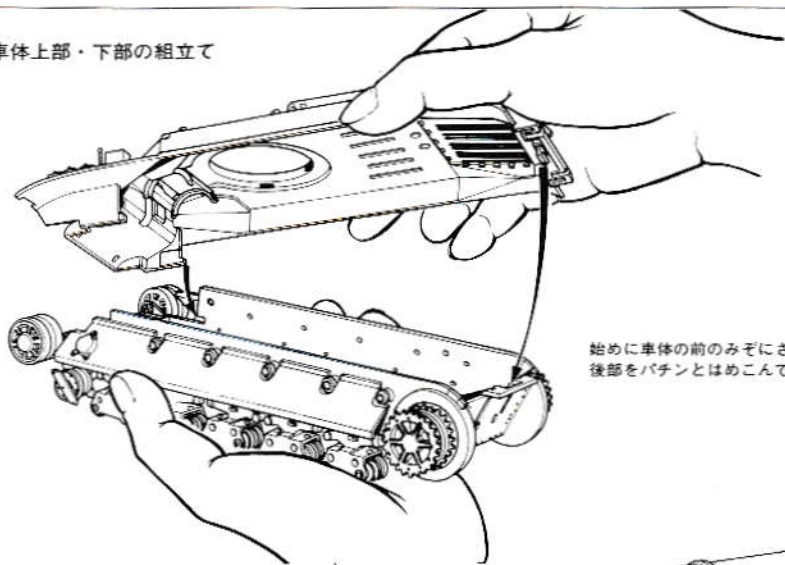
- 上図のようにわりばしに2.5cm位のくぎを差し込んだものや、先のごく細いドライバーを使って焼き止めします。
- ①キャタピラ的一方をセロファンテープで机の上に固定し、ピンを穴にはめ込みます。次に熱したくぎの頭やドライバーの先でピンの頭を軽く熱します。②すぐに指でピンを押しつぶしキャタピラを連結させます。
- キャタピラが切れたり焼き止めが弱かった場合には図の様に、黒糸かホッチキスで補強して下さい。

《人形の組立てと塗装》

人形の腕をとりつけて、戦車の砲塔にのせて下さい。手に持たせるマイクは部品B1です。顔の表情や服のしわなどを、筆塗り専用塗料のエナメル系塗料で画きこんで下さい。

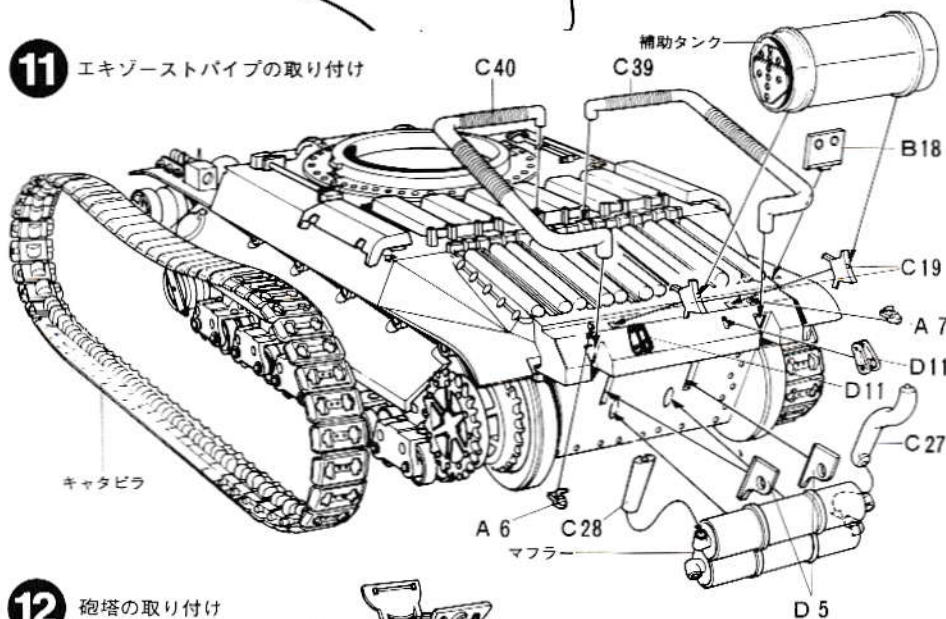


10 車体上部・下部の組立て



始めに車体の前のみぞにさしこみ、後部をバチンとはめこんで下さい。

11 エキゾーストパイプの取り付け



12 砲塔の取り付け

